

現状	成果	課題	課題に対する具体的な取組
<p>【相談活動】</p> <p>1. 来所・出張(訪問)相談件数(12月末現在) 受理件数 H28 293件→H29 306件 延べ件数 H28 1,779件→H29 2,038件</p> <p>2. 電話相談件数(12月末現在) 延べ件数 H28 722件→H29 747件</p> <p>3. メール相談件数(12月末現在) 延べ件数 H28 73件→H29 82件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談延べ件数や電話相談件数は増加傾向にある。 ○ 小学校の受理件数は減少傾向にある。 ○ SC等の常駐配置や関係機関との密接な連携により、困難な相談内容に対してもより効果的な支援がなされるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 受理した相談ケースに応じた、より円滑な関係機関連携が必要である。 △ 子どものコミュニケーション媒体が「メール」から「SNS」に変化したことへの対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 関係機関と連携した相談ケースを分析し、より円滑な関係機関との連携体制を構築する。 ◎ SNSを活用した相談支援体制を構築する。
<p>【学校支援】</p> <p>1. 支援会の主な構成 校長、教頭、主幹教諭、特別支援コーディネーター、SC等担当教員、学年主任、学級担任、養護教諭、SC、SSW、教育委員会(教育支援センター等)関係者 等</p> <p>2. 心の教育センター訪問回数 10校計：75回(12月末現在)</p> <p>3. 支援ケース数(延べ件数) 10校計：318件(12月末現在)</p> <p>4. 重点支援校以外の訪問回数 合計251回(12月末現在) ※重大事案対応、校内研修会・校内支援会への支援 等</p>	<p>1. 校内支援体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 支援会のシステムが定着し、SCやSSWも含めた組織的な動きが見られる。 ○ 事案の緊急性に応じてケース会議を開催し情報共有や見立てができています。 <p>2. 支援会の運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴールイメージを持ち、「見立て」を基にスモールステップの対応がなされている。 ○ 「個別支援シート」を使用した支援会を開催し、他機関との連携も始まっている。 ○ ケース会議を重ね、学級の状態が改善された。 ○ PDCAサイクルにおいてCからAへの対応を確認することができた。 <p>3. 教員等の意識の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 担任のしんどさを学級全体で理解しようとする雰囲気生まれた。 ○ ケースを出すことに否定的であった教員が協力的になり、支援の進捗状況を確認することができた。 ○ 支援会で相談したいという希望が増え、協議内容について職員会で情報共有ができるようになった。 	<p>1. 校内支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> △ さらに効果的なPDCAサイクルを進める必要がある。 <p>2. 支援会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> △ 支援会の決定内容について全職員への周知をさらに徹底する必要がある。 △ 教員の相談ニーズに的確に対応できる組織的支援の継続が重要である。 <p>3. 教員への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> △ 学校全体として初任(若年)者を交え成長を促す必要がある。 △ 担任個人が抱え込むのではなく、「チーム支援」の考え方を理解し活用する方向へ層を進める必要がある。 	<p>1. 校内支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ SC等の高度な専門性を活用したより実効性のある「チーム支援」の形を定着させる。 ◎ 個人が課題を抱え込まない「学校組織」をつくる。 <p>2. 支援会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 「見立て」→「支援計画」→「支援実施」→「評価」のPDCAサイクルを検証し、継続支援につなげる。 ◎ 支援会参加者がそれぞれの役割を確実に実行し、支援の現状を学校全体で確実に共有する。 ◎ コーディネーターの育成を進め、当該学校の実態に応じた円滑な準備を進める。 <p>3. 教員への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 担任自身がケースを出して良かったと思える支援会を構築する。 ◎ 外部人材や関係機関など、あらゆる「支援資源」を活用した支援に努める。

今後の支援の方向性

- ☆ 様々な事案に対するワンストップ&トータルな支援の充実と関係機関とのより円滑な連携体制の構築
- ☆ SNSを活用した相談支援体制の実施と効果の検証
- ☆ SC・SSWを加えた実効性のある校内支援会(コーディネーターの力量形成を含む)のモデルづくりと県内への般化